

イトー、賃貸事業強化

磐田の新駅近くヤマハ発の寮建設

建設業のイトー(磐田市、伊藤益夫社長)は賃貸事業を強化する。磐田市内に東海旅客鉄道(JR東海)が開設する新駅近くに約15億円を投じてヤマハ発動機向けの独身寮と賃貸用店舗兼オフィスビルを建設する。今後5年間に150億円を投じて県西部に加え首都圏などの賃貸需要を掘り起こし賃貸事業の売上高を年間40億円と現在の約2倍に引き上げる。

5年で150億円投資

JRの新駅は東海道本線の袋井駅から西に4.6キロ、磐田駅から東に3.2キロの場所です。20年3月末の開業に向

けて整備が進んでいる。イトーではこの新駅の北口から徒歩1分にある敷地面積3000平方メートルの地に独身寮とオフィ

スビルを建設する。独身寮は6階建て約90室で、16年1月に着工し17年3月の完成後、全館をヤマハ発に貸し出す。オフィスビルは19年5月着工、完成は新駅開業後の20年4月の予定。

イトーは浜松を中心に寮やマンション、オフィスビル、アミューズメント施設などの賃貸事業を手がけているが、ヤマハ発との賃貸契約は今回の独身寮が初めて。ヤマハ発の社は最寄りの磐田駅から約3キロ離れているが、新駅までは800メートルと利便性が大幅に向上する。

イトーは今回の案件を皮切りに浜松を中心とする県西部に加え首都圏や



ヤマハ発動機向け独身寮と賃貸ビルを建設する(完成予想図)

東北、近畿など全国でオフィスビルやアミューズメント施設の賃貸需要を開拓。需要に見合った賃貸物件の開発、整備に今

後5年間に約150億円を投じる考えだ。同社は1955年設立で浜松や磐田など県西部を中心に建設業を展開するほか2011年にはインドネシアに進出した。15年6月期の連結売上高130億円のうち賃貸事業は16億7000万円。

主力の建設業は工事量の増減が激しいため、賃貸事業の年間売上高を40億円規模まで増やし、収益基盤の安定につなげる。